

看護学同窓会便り No. 12

平成28年11月23日発行
連絡先
電話・FAX 095-819-7946
同窓会事務局 中尾

会長あいさつ

会長 浦田 秀子

会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。4月に発生した熊本地震で被災された同窓生の皆様に心よりお見舞い申し上げます。1日も早く日常を取り戻せますようお祈り申し上げます。長崎大学は被ばく地にある大学として放射線と向きあってまいりました。「看護師と放射線との関わりは、自らも被爆しながら被災者をケアした広島長崎の看護師に始まります。(日本放射線看護学会HPより)」とあるように先輩たちのDNAを受け継ぎ、今年は大きく2つ前進しました。その1つは「放射線看護」が「専門看護師」の教育課程として分野が認定されたことです。長崎大学は平成22年より「放射線看護」の専門家の育成のため、「放射線看護専門看護師養成コース」(修士課程)を立ち上げました。その成果は開設から1年後の平成23年3月に東京電力福島第一原子力発電所事故において示されました。学生は事故直後より福島県立医科大学に赴き緊急被ばく医療体制の構築に大きく貢献しました。また、事故により避難を余儀なくされたものの、いち早く帰村した福島県川内村に常駐し、長期にわたり放射線被ばくによる健康影響へのリスクコミュニケーションを実践してきました。このような活動は多方面から高く評価されました。そこで、同じように教育をしている弘前大学、鹿児島大学と平成24年度から日本看護系大学協議会に「放射線看護」分野の教育課程の特定を申請しました。多くの関係機関のご支援・ご指導を受け、平成27年度に念願の専門分野として認定を受けることができました。現場で活動する「放射線看護専門看護師」が誕生するにはまだ先になりますが、今後ともあたたかく見守っていただければとお願い申し上げます。

2つ目は平成28年4月、長崎大学と福島県立医科大学との共同大学院「災害・被ばく医療科学共同専攻(修士課程)」が開設されたことです。長崎大学は被ばく医療学分野において長年の実績を持ち、全国に先駆けて放射線看護学分野の教育を開始しています。一方、福島県立医科大学は東日本大震災を経験し、災害医療分野での実績と教育フィールドを有しています。両大学の強みを活かした特徴ある大学院です。学生達は仕事を持ちながらも真摯にそして意欲的に学業に取り組んでいます。また、両大学は昨年、原子力災害に対応する医療施設として、高度被ばく医療センターおよび原子力災害医療・総合支援センターに指定されました。原子力災害医療の構築というわが国の重要課題に共同大学院は貢献できるものと考えます。

今年も11月23日に同窓会総会、懇親会を開催いたします。皆様お誘いあわせの上ご出席下さいますようご案内申し上げます。皆様にお会いできることを楽しみにしております。



平成27年度庶務報告

平成27年度庶務報告

- 平成27年度入会者 79名
平成28年度入会者 80名
- 経過報告
 - 同窓会総会 平成27年11月23日
 - 理事会開催 3回
 - ホームページ管理
 - 慶弔
・3月25日 医学部保健学科卒業式
お祝い:生花スタンド
 - 物故者へ弔電
 - 原爆慰霊祭に浦田会長献花、生花寄贈
- 看護学研究奨励賞運営
- 同窓会便りNo.11発行

同窓会員数

| | |
|------|------------------------------------|
| 総数 | 3,797名 |
| 正会員 | 養成所 282名 |
| | 厚生女学部 138名 |
| | 看護学校 1,307名 |
| | 医療短大 1,201名 |
| | 保健学科 846名(医療短大の卒業生7名 |
| を | 除く) |
| | 修士課程 20名(看護学校、医療短大、保健学科の卒業生21名を除く) |
| 名誉会員 | 1名 |
| 準会員 | 2名 |

平成28年9月30日現在

ホームページのご案内

長崎看護学同窓会のホームページを開設して皆さまにお知らせやご報告、ニュースレターなどの情報発信を行っております。どうぞ一度ご覧になってください。

[<http://www.nagasaki-kango.org/>]



～卒業生の近況報告～

熊本赤十字病院 心臓血管外科・循環器内科所属
松倉汐里（保健学科11回生）



就職して初めての給料を貰い明日から3連休と心を躍らせ眠りについた直後に熊本地震が発震しました。地震直後に病院からの連絡を受け、徒歩5分の宿舎から同僚と共に病院へ駆けつけました。病院へ着くと1階の救急外来にはすでに患者さんが来られていました。私は自分が所属している病棟に上がり患者さんと病棟のスタッフの安否の確認、物品の整理から水浸しになった病棟の清掃、患者さん一人ひとりへの声かけを翌朝まで行いました。

就職して2週間で起きた熊本地震。看護技術の研修を終えていなかったため患者さんへの処置が何1つ出来なく、先輩方から指示されたことを手伝うことしか出来ませんでした。この時、自分の無力さを感じたと共に懸命に救助にあたる先輩方を間近に見ることができ感銘を受けました。また、全国の赤十字やDMATなどの災害医療チームが応援に来てくださり、強固な協力体制に感激しました。発震から数日経つとエコノミークラス症候群やノロウイルスなどの感染症などが増加し、発震直後とは違う医療ニーズが求められました。時間が経つとともに医療ニーズは変化してくるということ学びました。

災害に対応できる救護看護師になりたい私にとって熊本地震でみた強固な協力体制、リアルな救命とトリアージ、迅速に対応する先輩方を見て救護看護師になりたい思いが強くなりました。なかなかライフラインが復旧せず、普通の生活が出来なくてきついなと思うことも多かったですが、とても貴重な経験となりました。これからも日々自己研鑽に努めて強く逞しく、まさかの時に対応できる看護師になりたいです。



長崎大学大学院医歯薬学総合研究科災害・被ばく医療科学共同専攻
山口 拓允（保健学科11回生）



2011年3月11日14時46分。私の人生を変えた出来事が起きた。東日本大震災は、地震や津波の甚大な被害を出しただけでなく、東京電力福島第一原子力発電所事故が起きた、まさに未曾有の大災害であった。

医療職者となることを夢見、長崎大学に入学することが決まっていた3月11日、何もできない自分がそこにいた。ただただ毎日放映される東北での出来事をテレビ越しに見つめるしかなかった。2年次の実習の最終日、実習指導の先生に、「放射線看護専門看護師」について初めて聞いた。その時はそこまで深く捉えていなかったかもしれない。しかし、3年次の臨地実習の最中、現在私が在籍している「災害・被ばく医療科学共同専攻」が開講することを聞いた。何の根拠もなかったが、何故か腑に落ち、入学を決意した。その時の私が放射線について底知れぬ興味があったわけではない。しかし、物理学者の寺田寅彦は「興味があるからやるというよりは、やってみるから興味が出る場合がどうも多いようである。」という言葉を残している。私は、きっとそれがこれなのだ、飛び込んだ。寺田寅彦の言うとおりであった。知れば知るほどわからなくなる、という矛盾をはらんだ“放射線”にどんどん引き込まれていった。

2016年4月、入学をし、同時に保健師として勤務し始めた。ライセンスを手に入れ、災害や被ばくについて学び始めた時に起きた熊本地震。しかしあの時と変わらず何もできない自分がそこにいた。自分の無力感に苛まれていた最中、私の職場で熊本に保健師として派遣要請のかかった先輩がいた。その経験を踏まえ、修士論文として「行政保健師の災害支援活動に関する現状と課題」について研究をすることとした。

日々留学生との会話で英語の研鑽を積み、講義で知らなかったことを学ぶことが出来る今、人生で一番充実した毎日を送っていると自負している。

看護師長になって—男性看護師長として—
片山哲也（医短8回生）

私は平成26年4月から長崎大学病院の看護師長に就任した医短8回生の片山哲也と申します。150年以上の歴史ある長崎大学は、長崎の医療の中核病院であり、また地域に根付いた医療を提供している素晴らしい病院だと感じ、看護師長として貢献させていただくことに喜びさえ感じております。

さて、なぜ私が看護師長になったのかと言いますと、私は長崎大学病院に就職して22年となりますが、5年目の時に東京医科歯科大学病院へ異動し、当時はまさに「上京してみたい」「最先端の医療の現場で働いてみたい」と言う浅はかな動機で異動を希望したと思います。しかし、この上京して3年間で看護師長になろうと思う第1のきっかけになりました。当時の上司（看護師長）が、男性だったのです。この看護師長の看護管理に関する考え方、振る舞いは、自分の中にも将来そういう道があるのだと考えさせられました。長崎に帰り「病院で働く看護師には認定看護師などのスペシャリストの道や看護管理者といったジェネラリストの道がある。」将来看護師を続けていく上でどちらかを選択する日がやがてくると思いました。その後副看護師長となり医療の現場において組織の中で優れたチーム医療を築き上げていくことが大切であると感じ、看護管理を学び成長していくことが自分の道であると思ったのが第2のきっかけとなり看護師長となりました。看護人生の中でこれからも選択肢を迫られる時が来ると思いますが、組織の中で何が貢献できることであるのか、ポジティブに考えて選択していくことが大切であり、これからも精進していきたいと思っております。



長崎大学病院 緩和ケアセンター
森下 暁（保健学科2回生）

みなさま、はじめまして。保健学科2回生の森下暁と申します。私は現在長崎大学病院の緩和ケアセンターに、がん看護専門看護師として従事しております。保健学科を卒業し5年目の年に、長崎大学大学院のがん看護専門看護師養成コースへ進学いたしました。長崎大学大学院では、それまでがん看護専門看護師養成コースの修了生がおらず不安な日々を過ごしていたことを記憶しております。しかし、多くの先生の指導のもとがん看護に関する礎を学ぶことができ、がん看護の実践における多角的な視点の構築に結びつけることができました。

さて、みなさまは「緩和ケア」ということばに、どのようなイメージをお持ちでしょうか。「終末期」「ターミナル」「がん」「治療ができない」などのイメージを持たれている方も少なくないと思います。つい最近まではそのような考え方が普及しておりました。しかし、今は「がんと診断されたときからの緩和ケアの推進」が重点的な課題とされ「病気に伴う心と体の痛みを和らげること」と言われています。治療期にある患者さんから、終末期における患者さん、亡くなった後の家族ケアに至るまで、対象となる方は多岐に渡ります。

私は緩和ケアセンターで、入院および外来患者さんとその家族を中心に緩和ケアに関する看護実践およびケアに関する病棟看護師との連携を行っております。「がん」と言われることでの気持ちの落ち込み、治療の継続に揺れる思い、治療への期待と不安、今後の見通しの不透明さ、治療や疾患に伴う有害事象の苦悩や苦痛など、がん患者さんは多くの心理的な変化を経験します。このような様々な場面においても、患者さんは意思の決定を迫られることとなります。がんであること自体が問題ではありません。がんであることで、その方の生活、人生がおびやかされることのないような支援が求められます。そのために、患者さんとそのご家族が、できるだけ後悔が無いような意思決定ができるようにその支援に日々努めております。

私は看護師として、そしてがん看護専門看護師として、まだまだ未熟です。これからの成長のためにも長崎看護学同窓会のみなさまのお力添えをよろしくお願い申し上げます。

平成28年度看護学研究奨励賞受賞者 ならびに次年度募集について

本年も看護学研究奨励賞に3題の応募がありました。いずれも修士課程や博士課程で研究に取り組んでおられる方からの応募でした。本賞が研究活動の一助となることを大変嬉しく思います。総会では授賞式とともに、昨年授賞された3題の研究発表を予定していますのでぜひご出席下さい。

〈本年度受賞の研究課題〉

- ①「精神科領域における患者-看護師間のコミュニケーションに関する研究」
小川 るみ(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻精神障害リハビリテーション学分野)
- ②「腎移植後レシピエントの自己管理行動に影響を及ぼす背景要因に関する検討」
佐田直子(広島大学大学院医歯薬保健学研究科保健学専攻 博士課程前期2年)
- ③「NIPTを受検した夫婦への意識調査」
渡名喜 海香子(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻看護学講座 修士課程2年)

〈総会で発表予定の研究課題〉

- ①「産婦の出産自己評価に影響する助産師の関わり」
次原詩乃(長崎大学大学院医歯薬総合研究科保健学専攻 修士課程2年)
- ②「胎児奇形の告知を受けた妊婦の経験と思い」
市成沙由理(長崎大学病院 6階西病棟)
- ③「介護二次予防対象者におけるマインドフルネスと主観的健康感の関連」
西田隆宏(社会福祉法人あしたば会 佐世保市吉井地域包括支援センター)

☆次年度も以下の日程で募集しますのでご応募ください。

応募期限:平成29年6月20日～7月20日

詳細については下記までお問い合わせ下さい。

問い合わせ先:勝野久美子(長崎北病院)

Tel 095-886-8700

e-mail:kita_k_katsuno@shunkaikai.jp



1. 物故者ご氏名

養成所 23期生 籠甲屋 伸子(旧姓 永利) 平成28年3月
 養成所 23期生 江崎 八重子(旧姓 高田) 平成28年6月
 厚生女学部1期生 小土井澄子(旧姓 大畑) 平成28年3月21日
 看護学校 36回生 佐藤 美也子(旧姓 原田) 平成28年1月27日

2. 表彰を受けられた方

看護学校 10回生 荒木宣代 日本看護協会名誉会員
 看護学校 25回生 高橋真弓 瑞宝単光章

平成28年度看護学同窓会理事名簿

| 役職・氏名 | 卒業回 | 所属・連絡先 |
|--|--|---|
| 名誉会長 加藤 奈智子 | 看学2 | |
| 会長 浦田 秀子 | 看学21 | 原爆後障害医療研究所 819-8515 |
| 副会長 勝野 久美子 (看護学研究奨励賞担当) 萩原 絹子 | 看学27 看学28 | 社会医療法人春回会 長崎北病院 看護部・819-7523 |
| 書記 小渕 美樹子 中尾 恵理子 | 看学36 医短3 | 看護部・819-7522 医学部保健学科 819-7946 |
| 会計 石田 紀代美 鳥越 絹代 | 看学32 医短1 | 病床管理・819-7767 8階西病棟・819-7398 |
| 監査 下田 澄江 田添 京子 | 看学20 看学22 | |
| 学外理事 平湯 路子 林田 英子 荒木 宣代 橋村 洋子 山口 則子 久松 千鶴香 松藤 由布子 | 看学6 看学21 看学10 看学14 看学15 看学26 保健学科6 | |
| 学内理事 高橋 真弓 福田 昌恵 中村 千代美 片山 哲也 森藤 香奈子 (看護学研究奨励賞担当) 張川 恭子 森下 暁 | 漢学25 看学34 看学36 医短8 医短10 医短10 保健学科2 | 看護部・819-7767 手術部・819-7424 11階西病棟・819-7798 11階東病棟・819-7391 医学部保健学科・ 819-7981 SCU・819-7392 緩和ケアセンター・819-8555 |

編集後記:東日本大震災、熊本地震と、卒業生がそれぞれの形で活躍していることは、大変頼もしく感じました。また、「放射線看護専門看護師」が誕生した際は、その専門性に期待したいと思います。さらに男性看護師長の活躍は、長崎看護学同窓会の歴史が発展していると感じました。



(保健学科2・森下暁)